

筑 波 大 学

哲学・思想学系論集

昭和52年度

筑波大学 哲学・思想学系

昭和五十二年度

筑波大学

哲学 · 思想学系論集

卷頭にあたつて

昨秋、かねて建設中であった人文・社会学系棟が完成し、わが哲学・思想学系も漸くその本来落着くべき所に座を占めることとなつた。とは言え、新しい機構と態勢による大学の整備・充実は、多くの重要な課題をかかえつつ、なお今後の粘り強い奮為にまたねばならない。そうしてまた、このことは、学系における研究体制の充実や文献資料の整備などについても例外ではないのである。このような状況の下に研究・教育に携わる私どもは、当面する問題への対処とその克服に当たりながら、自らの本来の奮為に取組みつつ、学内外の共同研究・学術交流はもとより、さらには国際的な交流をもまた不可欠な活動として、今後の発展を期さなくてはならない。

およそ、人間のさまざまな奮み、殊にその学問的奮為においては、一つの目標への到達に即して、常に、次の新たなる目標がかなたの地平に浮上している。私どもの奮みの道がそのようなものであつてみれば、たとえその歩みは牛歩の如きであるとしても、そこを要請されるものは撓みない奮為であり、その私どもの耳朶を打つのは *Festina lente (make fast slowly)* の声でもあるうか。

殊に新しいものの建設の中にあって、常に自らの新しい地平に立向うためには、当然それに伴うさまざまの試練を覚悟せねばならない。及ばずながら、私どもは、このような覺悟のもとに、なお建設途上の大学の一翼を荷つてその奮為に参加しつゝ、個々の基礎的研究を世に問う紀要の刊行を志して三年を闊した。その間、種々のご批正を辱うしてきましたことに對し、ここにあらためて厚く謝意を表するとともに、将来にわたつてより一層のご示教を賜わらんことを祈念してやまない。

昭和五十三年三月

学系長 川那部 保

日 次

イメージについて.....
鳥 厚 一

一遍の宗教の歴史的性格 (二)
清 三

——鎌倉旧仏教の神祇觀との対比——
弘 畠

「莊子」の思想的特質
矢 田 信 夫 一

——外篇を中心として——
堀 池 信 夫 一

宇宙的思惟から内的思弁へ
松 田 信 夫 一

プラトンの宇宙の時間性と空間性 (二)
光 一 〇

疑いと信仰の間
島 光 一 〇

——中山みきの教けの信仰の起源——
蘭 進 一 七

筑波大学

哲学・思想学系

研 助 講 助 教
究 員 手 師 教 授

島矢 松堀 広野 別野 奈辻 嶋川 上池 飯山 永高 高三 木川 大井
那
蘭内 田池 神田 府町 良村 田崎 笹田 塚田 井橋 木枝 全部 島門
光 信 茂淳 博誠 信 美勝 英 勘充 德 康富
二
進一 弘夫 清徳 夫啓 順三 厚定 恒惠 久世 博進 式恵 雄保 正夫

(昭和二十三年三月現在)

昭和五十三年三月二十日 印刷
昭和五十三年三月三十一日 発行 (非売品)

発編行集者兼 筑波大学 哲学・思想学系

〒300-31
茨城県新治郡桜村天王台一丁目一番地の一

印刷者 株式会社 東京プレス

東京都板橋区桜川二丁目二七番一二号

STUDIES

1977

INSTITUTE OF PHILOSOPHY
THE UNIVERSITY OF TSUKUBA

CONTENTS

Atsushi SHIMADA: On Images.....	1
Kiyoshi HIROKAMI: A Study on the Historical Character of the Ippen (一遍) Teaching (II)	13
Hiroshi MATSUDA: The Characteristic of Thought of Chuang-tzu 「莊子」 —Mainly on "Wai-p'ien" 外篇—	35
Nobuo HORIIKE: From Cosmic Thinking to Inner Speculation.....	71
Kōichi YANAI: Temporality and Spatiality of Plato's Universe, I	103
Susumu SHIMAZONO: Between Doubt and Faith —Origin of Faith in Saving by Miki Nakayama—	117
<hr/>	
SUMMARIES of ARTICLES.....	(1)

STUDIES

1977

INSTITUTE OF PHILOSOPHY
THE UNIVERSITY OF TSUKUBA